

9月26日（日）、邑南町で初めての試みとなる「住民会議」を実施しました。

2011年度から日本一子育てしやすい環境づくりを目指して取り組んできた「日本一の子育て村構想」は、2020年度で構想期間の10年を経過しました。構想の理念である「地域で子育て」を引き継ぎ、今後も子どもたちが健やかに成長できる「子育て環境の充実を推進していくために「子ども条例（仮称）」策定に向けて、ワークショップ形式の意見交換をしました。

子育て世代を中心に幅広い参加！

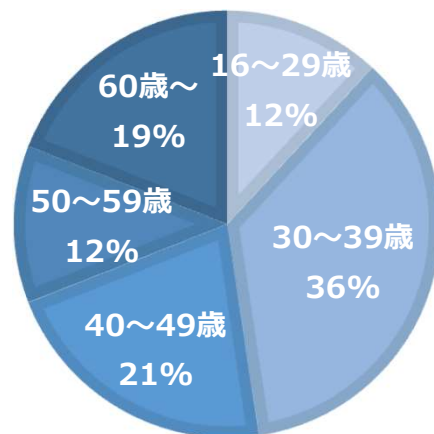
第1回は、初めに石橋町長から挨拶があり、地域みらい課から「日本一の子育て村構想」の効果検証結果（地域みらい課が2019年度から、島根県中山間地域研究センターと行った共同研究）を報告、またセンターからは「子育て支援」から「子育て環境」の充実化、「親の働く環境」や「地域の子育て力」の確保に向けた提言もありました。

グループワークでは、事前に行った中学生アンケートの結果を確認しながら、「こうだったら暮らし続けたいと思う子どもが増える」というアイデアを議論しました。

「夢描く理想の話」ばかりではなく、学生の視点、親の視点、祖父母の視点、事業者の視点など、いろんな視点から「生活者として日々感じている具体的な困りごとや改善アイデア」について意見交換を行いました。

最後に講評では（中山間C有田さん）、今日出たアイデアから、「確保する」、「保障する」、「つむぐ」の3つの観点から再度整理して次回に繋げていくことが提案されました。

子育て世代を中心に多様な年代が参加！



参加者は現役高校生16歳から80歳と、老若男女、幅広い参加があり、活発な意見交換を行いました。

従来参加が少ない年代の参加が見られました。

新しいまちづくりへの参加の仕組み！

参加者アンケートでは、約6割が「町主催の会議・ワークショップに参加したことがない」と回答されました。「こういった場合は苦手」と言われるすべての住民の方に参加いただくことは難しいながらも、無作為選出という今回の新しい会議方法は、従来型の委員公簿等の場に参加したことが無いという方も「まちづくりに参加する」きっかけになったと思われます。特に、子育て世代からも積極的な参加が得られたことは大きな成果です。今後も、このような「参加の輪」を広げる取組の継続が求められています。

